

## 第2章

---

# 町のおゆみ

# 1. 鱈ヶ沢町の縄文遺跡：縄文時代



縄文時代は、1万年以上も続いたんだね。

鳴沢川の下流から、縄文時代早期の遺跡が2カ所見つかったんだ。



## (1) 縄文時代

鱈ヶ沢町では、縄文時代から人々が集まって生活していたあとがたくさん見つっています。

縄文時代は、いまから約1万6,000年～1万5,000年前に始まり、1万年以上にわたって続いた時代です。縄文時代より前の旧石器時代は寒冷な気候でしたが、縄文時代になると暖かな気候になりました。暖かな気候になったことで豊かな森や海ができ、木の実や山菜、魚、貝などの食べ物が手に入りやすくなりました。そこで、人々は家をつくり、みんなで集まって長い間、同じ場所で生活するようになります。また、土器を使い始めたのも縄文時代です。土器は、ねん土をこねて形をつくり、焼いてつくります。土器は、食べ物をにたり、貯蔵したりするのに使われました。

鱈ヶ沢町の縄文時代の遺跡からも、土器が見つっています。このことから、鱈ヶ沢町には縄文時代から人が住み、土器を使っていたことがわかっています。



【青森県史 資料編 考古1、考古3より】



【出典／青森県史 資料編 考古1より】

## (2) 縄文時代早期の遺跡

鱈ヶ沢町では、縄文時代早期の遺跡が2カ所見つっています。北浮田町の鳴沢川下流にある「今須遺跡」と「平野遺跡」です。これらの遺跡からは、縄文時代早期のものとされる土器が発掘されました。

今須遺跡は、1998（平成10）年に、道路をつくるための発掘調査で見つかった遺跡です。見つかった土器の特徴から、今須遺跡が縄文時代早期の遺跡だとわかりました。

一方、平野遺跡は、小高い丘の上にある遺跡です。2000（平成12）年の発掘調査で、無文土器が見つかりました。無文土器は、表面に模様がない土器です。平野遺跡の無文土器は、約9,000年以上前に使われていたことがわかっています。

今須遺跡と平野遺跡は、縄文時代早期の遺跡です。これらの遺跡が見つかったことで、いまから約9,000年以上も前から鳴沢川下流には人々が住み、土器をつくっていたことがわかりました。



平野遺跡から見つかった無文土器

### 遺跡って何だろう？

昔の人々の家や道具など、生活のあとが見つかることを遺跡というんだ。遺跡は土の中にかくれていることがほとんどだけど、畑を耕したり、工事の時に土器などが見つかったりして遺跡だとわかるんだ。一度ほった土は、まわりの土と比べて色やかたさが違うんだよ。色が違う土を少しずつほっていくと、遺跡の大きさや深さがわかるんだって。

【出典／特別史跡「三内丸山遺跡」サンマルタンケンタイより】



### 縄文時代の人々の生活を調べてみましょう

縄文時代はいまから約1万6,000年～1万5,000年前から始まって、約1万年も続いた時代なんだね。鱈ヶ沢町の鳴沢川の下流からは、縄文時代早期の遺跡が2カ所見つっているよ。遺跡は、人々がいつこの場所に住み、どんな生活をしていたか、とても古い時代のことを教えてくれるんだ。平野遺跡から無文土器が見つかったことで約9,000年以上も昔から鱈ヶ沢町で人々が生活していたことがわかったんだよ。

縄文時代って、どんな時代だったのかな？ 縄文時代の人たちは、どんな生活をしていたのかな？ 「JOMONぐるぐる」というホームページで、縄文時代のことを調べてみようね。



【JOMONぐるぐる】

## 2. 餅ノ沢遺跡：縄文時代



もちのさわいせき  
餅ノ沢遺跡では大きな  
竪穴住居あとや石  
棺墓も見つかったん  
だって。

大きな竪穴住居って、  
どれくらいの大きさ  
なの？ 石棺墓って  
何？



### (1) 餅ノ沢遺跡の調査

餅ノ沢町建石町には、縄文時代の前期と中期を中心とした遺跡があります。餅ノ沢遺跡です。餅ノ沢遺跡からは、竪穴住居あと、石棺墓、捨て場などがみついています。

餅ノ沢遺跡は、鳴沢川と長前川に沿った、建石町の小高い台地の上で見つかりました。1978（昭和53）年から2000（平成12）年までの間に、何度も調査が行われました。それにより、8カ所の竪穴住居あと、6つの石棺墓、2カ所の捨て場などがみつかりました。捨て場は、土器や石器などを捨てた場所のことです。餅ノ沢遺跡の捨て場からは、大量の土器や石器などがみつかりました。中には、きゅうすのように注ぎ口がついた土器もありました。この土器は、人の顔のモチーフがついているので「人面付注口土器」と呼ばれています。捨て場からは、ヒスイという石もみつかりました。ヒスイは新潟県糸魚川市でとれる石です。ヒスイは、青森市の三内丸山遺跡からもたくさんみついています。

餅ノ沢遺跡は、工事を行うかぎられた区域で調査が行われました。そのため、調査をしていない場所にも遺跡があるのではないかと考えられています。餅ノ沢遺跡では、縄文時代晩期から弥生時代の遺跡もみついています。このことから、建石町には、長い期間にわたって集落があったことがわかります。



餅ノ沢遺跡の大型竪穴住居あと  
【提供／青森県埋蔵文化財調査センター】



復元された大型竪穴住居（三内丸山遺跡）

### (2) 大型竪穴住居と石棺墓

餅ノ沢遺跡で見つかったものの中で、特に注目されたのが大型竪穴住居あとと石棺墓です。

竪穴住居は、地面に穴をほって床をつくり、その上に柱を組んだ住居です。餅ノ沢遺跡で見つかった8カ所の竪穴住居あとのうち、3カ所は大型竪穴住居あとです。3カ所のうちで一番大きいものは長さ28m以上もあります。大型竪穴住居あとは、三内丸山遺跡でも見つかりました。三内丸山遺跡の竪穴住居あとは一番大きいもので長さ32m、はば約10mもあります。大型竪穴住居について、三内丸山遺跡では、さまざまな使われ方が考えられています。たとえば、集落の集会所、みんなが共同で利用した作業所、いくつかの家族が集まって住んだ共同住宅などです。

石棺墓とは、地面に穴をほり、まわりを平たい石で囲んだお墓です。6つの石棺墓の中には、ふたがある石棺墓もありました。餅ノ沢遺跡の石棺墓は縄文時代中期から後期のものと考えられています。石棺墓はとても貴重なことから、保存する展示室がつけられました。

大型竪穴住居あとや石棺墓が見つかった餅ノ沢遺跡は、縄文時代の貴重な遺跡です。



餅ノ沢遺跡から見つかった石棺墓  
【提供／青森県埋蔵文化財調査センター】

### 弥生時代の土偶

建石町の大曲遺跡では、弥生時代の土偶が見つかったんだ。土偶は、土でつくった人形のことだよ。縄文時代に土偶がつくられていたことは知られているけど、弥生時代にも土偶がつくられていたんだね。



大曲遺跡から  
見つかった土偶  
【所蔵／青森県立郷土館  
提供／青森県立郷土館】



### 石棺墓を見てみましょう

餅ノ沢遺跡は、建石町で見つかった遺跡だよ。縄文時代前期と後期を中心に、弥生時代にも、この場所に集落がつくられていたんだって。1978（昭和53）年から行われた調査で、長さ28m以上もある大型竪穴住居あと、新潟県から運ばれたヒスイもみついているよ。

餅ノ沢遺跡に住んでいた人たちは、平たい石を組んでお墓をつくっていたんだね。石棺墓というんだ。餅ノ沢遺跡で見つかった石棺墓を大切に保存するために展示室がつけられたんだ。展示室では、石棺墓を見ることができるんだって。見学してみようね。



# 3. 大規模な鉄生産集落：平安時代



へいあんじだい いわきざん  
平安時代、岩木山の  
ふもとで鉄づくりが  
おこな  
われていたんだっ  
て。

平安時代の人たちは  
どうやって鉄製品を  
つくっていたのかな？



## (1) 空沢遺跡

岩木山のふもと一帯からは、平安時代の鉄づくりにかかわる遺跡がたくさん見つかっています。そのうちのひとつ、鱈ヶ沢町湯舟町の空沢遺跡では、34カ所もの製鉄炉あとが見つかりました。

空沢遺跡は、見つかった土器などから、10世紀後半から11世紀前半までの遺跡と考えられています。空沢遺跡では、製鉄炉あとのほか、21カ所の竪穴住居あと、3カ所の鍛冶場あとなどが見つかりました。製鉄炉あとの数の多さから、この場所には鉄づくりを専門に行っていた人々の集落があったと考えられています。いままで東北地方北部で見つかった鉄づくりの遺跡の中でも、これほどの数の製鉄炉あとが見つかったのは、空沢遺跡だけです。

空沢遺跡では、たくさんの鉄や鉄製品がつくられていたと考えられています。しかし、遺跡から見つかった鉄製品は4つしかありません。このことから、空沢遺跡でつくられた鉄や鉄製品は、青森県内や北海道などに運ばれたと考えられています。

平安時代、湯舟町には、東北地方北部でもほかに例がないほど大規模な鉄づくり集落があったのです。



空沢遺跡から見つかった製鉄炉あと

【提供／青森県埋蔵文化財調査センター】



空沢遺跡から見つかった鉄滓

【提供／青森県環境生活部県民生活文化課  
所蔵／青森県埋蔵文化財調査センター  
撮影／設楽政健氏】

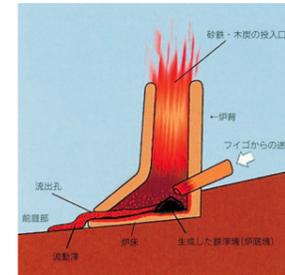
## (2) 平安時代の鉄づくり

平安時代、岩木山のふもとでは、どのようにして鉄をつくっていたのでしょうか。空沢遺跡で行われていた鉄づくりの方法を見てみましょう。

空沢遺跡の人々は、近くでとれる砂鉄を原料にして鉄をつくっていました。砂鉄は、鉄をたくさん含んだ砂のことです。まず、製鉄炉に砂鉄と、燃料となる木炭を入れて燃焼させます。次に、羽口という場所から強い風を送ります。こうすることで製鉄炉の中が高温になり、砂鉄がとけます。とけた砂鉄は、高温の炉の中で、質の良い鉄と、不純物が混じった「鉄滓」に分かれます。鉄滓はとけて流れ出るので、炉の中には質の良い鉄だけが残るのです。このようにして、平安時代の人々は、砂鉄を原料にして鉄をつくっていたのです。

こうしてできた鉄は、鍛冶場に運ばれました。鍛冶場は、熱した鉄をかなづちで打ち、刀などに加工した場所です。空沢遺跡の鍛冶場あとの近くには、鉄をたたいたり曲げたりする時の作業台に用いた金床石も見つかっています。また、大小の刀なども見つかっています。

平安時代、湯舟町では砂鉄を原料に、さまざまな鉄製品がつくられていたのです。



製鉄炉の仕組み

【提供／青森県環境生活部県民生活文化課  
作成／設楽政健氏】

## 湯舟町の高倉神社

空沢遺跡が見つかった湯舟町には刀鍛冶の「鬼神太夫」伝説があるんだ。貴重な鉄で農具をつくってくれた太夫に感謝して建てたのが湯舟町の高倉神社の始まりなんだって。高倉神社には、鉄のかたまりがまつられているんだよ。【出典／鱈ヶ沢の文化財より】



## 大規模な鉄生産集落があったことを覚えておきましょう

岩木山のふもと一帯では、鉄づくりにかかわる遺跡がたくさん見ついているんだ。湯舟町の空沢遺跡からは製鉄炉のあとが34カ所も見ついているよ。平安時代に、この場所で鉄づくりが専門的に行われていたと考えられているんだ。空沢遺跡でつくられた鉄や鉄製品は、北海道にも運ばれたと考えられているんだよ。



空沢遺跡では、砂鉄と木炭を使って鉄をつくっていたんだね。湯舟町の空沢遺跡のほかに、建石町や北浮田町などでも鉄づくりにかかわる遺跡が見ついているんだって。平安時代、鱈ヶ沢町で鉄がつくられていたことを覚えておこうね。

# 4. 安藤氏と大浦光信：鎌倉時代～室町時代



あしがさわまち 南北  
鱒ヶ沢町には、南北  
朝時代に建てられた  
いたび  
板碑があるんだ。

たねさとまち  
どうして、種里町が  
ひろさきはんはつしょう  
「弘前藩発祥の地」  
といわれているの？



## (1) 板碑と安藤氏

鱒ヶ沢町には、町の文化財に指定されている7つの板碑があります。板碑は南北朝時代に建てられたもので、津軽を治めていた安藤氏にかかわるものと考えられています。

板碑は、亡くなった人を供養するために、武士が建てた石碑のことです。表面には、年月日、名前、梵字という文字であらわした仏様などがほられています。板碑の文化が津軽に伝わったのは鎌倉時代の後期です。板碑が建てられたのは、津軽の中でも、岩木山の東側のふもと、平川が流れる地域、西海岸の3つのエリアに集中しています。鱒ヶ沢町の文化財に指定されている7つの板碑は、舞戸地区や赤石地区などにあります。また、深浦町の北金ヶ沢地区には「関の古碑群」という、板碑がたくさん集まっている場所があります。

板碑文化が伝わった鎌倉時代から室町時代にかけて、津軽を治めていたのが安藤氏という武士の一族です。安藤氏は、十三湖のほとりに「十三湊」という港町を築き、日本海の交易で栄えていました。

鱒ヶ沢町や深浦町に残る板碑により、この時代、安藤氏が西海岸を治めていたこと、そして、津軽に仏教が伝わったことがわかります。



深浦町北金ヶ沢の「関の古碑群」



松源寺に残されている板碑

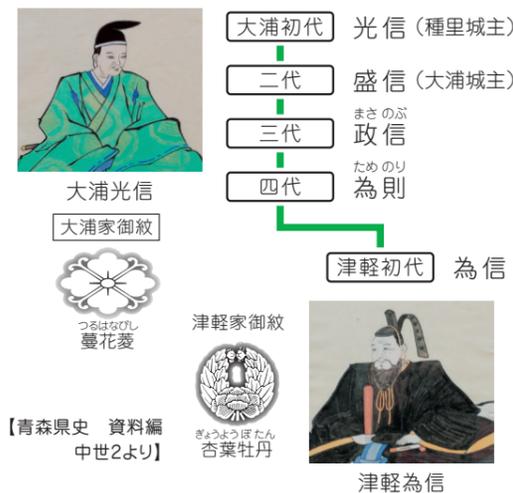
## (2) 大浦光信

1491（延徳3）年、大浦光信が種里町にやって来ました。光信は南部氏の家臣で、お供を連れて、現在の岩手県久慈市から来たと言われています。

室町時代、津軽をめぐる、安藤氏と南部氏の戦いが起こります。戦いの末、負けた安藤氏は北海道に逃げましたが、津軽を取り返すために再び西海岸から南部氏をせめました。はげしい戦いが続いた西海岸を守るため、南部氏は、久慈を治めていた家臣の南部（大浦）光信を送りました。光信は種里城を築いて津軽に力を広げます。1502（文亀2）年には、現在の弘前市岩木地区に大浦城を築き、息子の盛信を住まわせました。これ以来、大浦氏は大浦城に住むようになりました。

のちに、光信の子孫の大浦為信が津軽をまとめあげ、津軽氏を名乗って大名になります。大名が治める土地を「藩」、津軽氏の藩を「弘前藩」といいます。津軽為信は弘前藩の初代藩主になりました。光信の子孫が弘前藩の初代藩主になったことから、種里城があった種里町は「弘前（津軽）藩発祥の地」といわれているのです。

### 光信から為信までの略系図



### 光信と為信の御紋

一族の印として用いるシンボルマークを「御紋」というんだ。南部氏の一族だった光信は南部氏の御紋だったけど、為信は、牡丹の御紋を使ったんだよ。為信の御紋にちなんで、光信公の館には、牡丹の花が植えられているんだ。



### 板碑を見てみましょう

板碑は、亡くなった人を供養するための石碑だよ。町に残る板碑は、そのころ津軽を治めていた安藤氏にかかわるものと考えられているんだ。鱒ヶ沢町文化財に指定されている7つの板碑は、舞戸町、田中町、赤石町、日照田町、種里町にあるから見に行ってみよう！

大浦光信は1491（延徳3）年に安藤氏から津軽の地を守るために種里町に来て、種里城を築いたんだ。その子孫が弘前藩の初代藩主になったから、種里町は弘前（津軽）藩発祥の地といわれているよ。覚えておこうね。

# 5. 種里城跡と大浦光信のお墓：室町時代～江戸時代



たねさとじょうあと くに し せき  
種里城跡は国史跡に  
指定されているんだ  
って！

おおうらみつ  
種里城跡には大浦光  
信のお墓もあるんだ  
って！



## (1) 種里城跡

種里城は、室町時代に大浦光信によって赤石川を見下ろす高い丘に築かれたお城です。1988（昭和63）年から行った調査により、種里城はとても大きな城だったことがわかりました。

種里城の中心となる主郭は、東に急ながけがあり、ほかの3方向は深い谷のような堀で囲まれていました。このことから、光信がお城の守りを固めていたことがわかります。城のあとからは、148カ所の掘立柱建物あと、12カ所の竪穴建物あとなどがみつかります。お城の一番高いところには、長さ約27mもある大型竪穴建物あとがありました。ここは、光信の住まいだったと考えられています。そのまわりの竪穴建物あとは、米や麦など穀類の納屋や工房として利用されていた建物と考えられています。また、まわりの大小の平らな場所からは、侍屋敷あと、寺院のあとと伝えられる場所もみつかりました。

光信の住まいだったと考えられている場所からは、中国の青磁や国産の瀬戸・美濃焼の皿、ちゃわんなど、約1600点の陶磁器もみつかります。日用品のほかに茶道具も見つかり、そのころの大浦氏一族の生活ぶりが感じられます。種里城跡は、2002（平成14）年に、国の大事な遺跡として「国史跡」に指定されました。



主郭地区の発掘調査の様子



種里城跡で見つかった出土品を展示する  
光信公の館の様子

## (2) 大浦光信のお墓

大浦光信は種里城で亡くなり、種里城内にお墓「御廟所」がつけられました。

光信は亡くなる前に2つのことを言い残しました。一つは「自分が死んだら、よろいを着せて、ほら貝をもたせ、東南の方角に向けて立ったまま埋めるように」ということでした。息子の盛信はその言葉に従い、生きていた時と同じ武具を着せて、お墓に埋めました。御廟所は、長い間大切に守られ、いまでも残されています。

光信が言い残した二つ目は、自分のためにお寺を建てることでした。盛信は1528（享禄元）年に種里にお寺を建てます。このお寺は、光信の戒名（死後につけられる名前）から、長勝寺と名付けられました。これ以来、長勝寺は大浦氏（津軽氏）の菩提寺になりました。種里町にあった長勝寺は、光信の子孫の為信が築いた堀越城下へ、さらに大浦城近くの賀田村に移ります。江戸時代に弘前城が築かれると、長勝寺もお城に近い現在の場所に移されました。長勝寺は、大浦氏（津軽氏）の菩提寺として、お城とともに場所を移されていたのです。



大浦光信のお墓「御廟所」

## 光信の銅像

光信公の館の前の勇ましい銅像は、光信が種里に来てから500年になるのを記念して1990（平成2）年に建てられたんだよ。光信を大切に思う鱒ヶ沢町の人たちがお金を出しあって建てたものなんだよ。銅像の光信も、お墓と同じ、東南を向いて立っているんだって。



## 光信公の館を見学してみよう

大浦光信は、赤石川を見下ろす丘に種里城を築いたんだ。種里城は、自然の地形を生かした場所に建てられたんだよ。光信の住まいがあったとされる場所は、いまは公園になっていて、「光信公の館」があるよ。光信公の館には、調査で見つかったものを展示しているんだ。大浦光信や種里城跡のことを詳しく説明しているよ。開館日をホームページで調べて行ってみようね！

大浦光信のお墓「御廟所」は、種里城跡の裏手の道を下ったところにあるよ。御廟所を囲うさくは、2020（令和2）年10月、30年ぶりに新しく建てかえられたんだよ。御廟所もお参りしてみてね。



# 6. 弘前藩の重要な湊となった鱒ヶ沢湊：江戸時代



あしがさわみなと おおさか  
鱒ヶ沢湊から大坂に  
つがる  
津軽のお米がたくさん  
運ばれていったん  
だね。

まち ぶぎょう  
鱒ヶ沢には、町奉行  
しょ  
所があったんだよ。  
どこにあったか知っ  
てるかな？



## (1) 江戸時代の鱒ヶ沢湊

江戸時代は、海を利用して日本各地に荷物や人が運ばれ、海運が大きく成長した時代です。海の道によって、津軽と国内の各地は経済、生活、文化が結ばれていました。

弘前藩は、青森・鱒ヶ沢・深浦など6カ所の湊と3カ所の関所をあわせて「津軽九浦」と呼びました。九浦は、津軽の出入り口です。中でも鱒ヶ沢は陸上の主要な道すじにあり、お城がある弘前から一番近い湊だったことから、とくに重要な湊に定められました。

鱒ヶ沢湊の最も大きな役目は、津軽のお米を大坂（いまは大阪）などの上方に運ぶことでした。津軽の水田は、岩木川流域に広がっています。そこで弘前藩は、岩木川を利用して年貢米を中心とするお米を十三湊（現在の五所川原市十三）にいったん集めました。江戸時代の十三湊は水深が浅く、大きな船が湊に出入りできませんでした。そこで、十三湊から船で鱒ヶ沢湊へ運び、大きな船に積みかえて上方まで運んでいたのです。



江戸時代に書かれた「鱒ヶ沢町絵図」

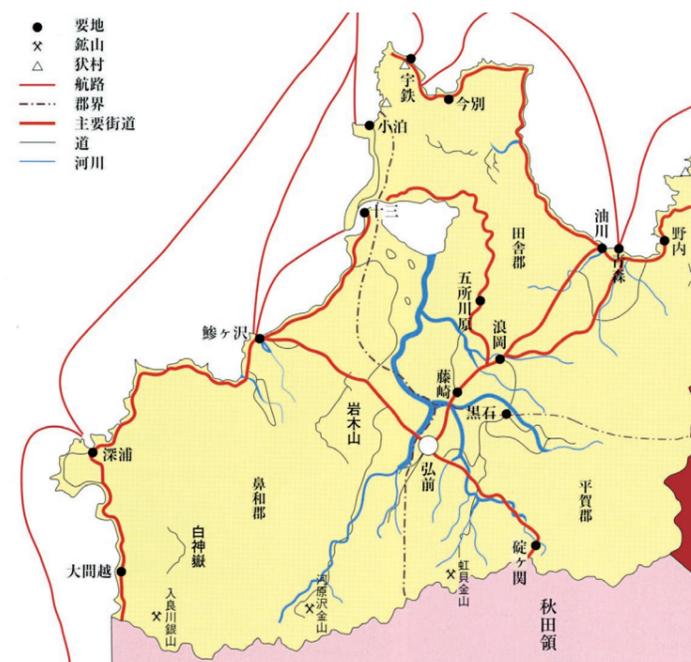
## (2) 鱒ヶ沢町奉行所

弘前藩は、津軽九浦に、それぞれ町奉行所を置きました。鱒ヶ沢にも、鱒ヶ沢町奉行所がありました。

鱒ヶ沢町奉行所は、「鱒ヶ沢警察署」の向かい側の場所に置かれていました。また、殿様が泊まったり、休んだりするための「御飯屋」もありました。

江戸時代は町奉行所のすぐ前が海で、船着き場がありました。弘前藩は、届け出をしていない人が津軽に出入りすることを禁じていました。町奉行所は、湊に出入りするたくさんの船や荷物、人がきちんとルールを守っているかを取りしまっていたのです。また、津軽から運び出すものや、津軽に運びこまれるものも取りしまっていました。津軽に出入りする商品には役銀という税金がかけられ、役銀を取りたてる「沖横目」も置かれていました。風や雨でしずんだ船や、積み荷の取りあつかいなども町奉行所の仕事のひとつでした。

津軽九浦は、弘前城がある弘前をのぞいて、弘前藩にとって最も重要な場所です。そして、津軽の出入り口となる九浦を取りしめる町奉行所は、重要な仕事をする場所でした。津軽に9カ所あった町奉行所のひとつが、鱒ヶ沢町にあったのです。



江戸時代の主要な交通図

【提供／青森県環境生活部県民生活文化課】



### 町奉行所があった場所に行ってみましょう

鱒ヶ沢湊は、弘前藩の重要な湊だったんだね。船や人がルールをきちんと守っているか取りしまったのが町奉行所だよ。鱒ヶ沢町奉行所は「鱒ヶ沢警察署」の向かい側の場所にあったんだ。町奉行所があったことを伝える看板があるよ。近くには鱒ヶ沢湊に来た船が水をくんだとされる「城の下の井戸」という井戸もあるんだ。行ってみようね。



# 7. 北前船と鰯ヶ沢湊：江戸時代



あしがさわまち きたまえぶね  
鰯ヶ沢町には北前船  
で運ばれたものがい  
まも残っているんだ。

しらはちまんぐう ふなびと  
白八幡宮は船人たち  
にとって大切な神社  
だったんだね。



## (1) 北前船

鰯ヶ沢湊には、江戸時代の中ごろから明治時代まで、北前船という船が出入りしてました。北前船とは、どのような船だったのでしょうか。

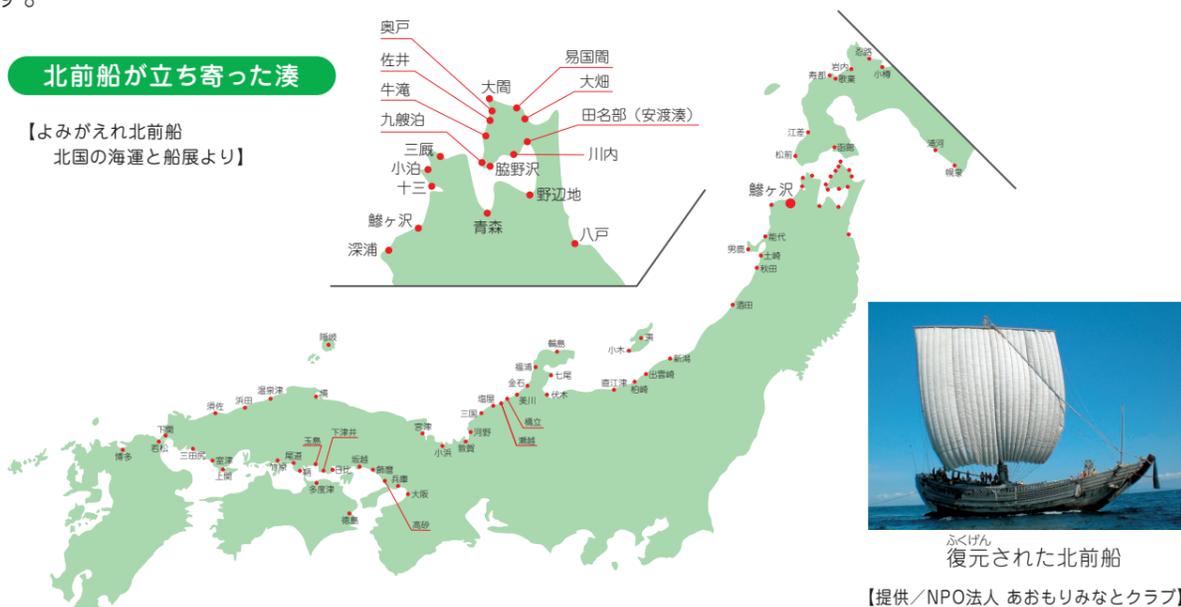
北前船は、大坂（いまは大阪）から、瀬戸内海、日本海沿岸を通り、北海道までの間を行き来した船です。途中立ち寄る湊で、さまざまな商品売り買いしました。行きは、上方や瀬戸内海方面の商品を日本海沿岸の湊や北海道で販売します。そして北海道では海産物などを仕入れ、上方へ帰る途中の湊で販売していたのです。北前船は現在でいう総合商社の仕事をして、大きな富を築きました。

北前船が立ち寄った湊も、大いに栄えました。明治時代まで、鰯ヶ沢湊にもたくさんの北前船が立ち寄りしました。北前船は、鰯ヶ沢湊で主に米を買い、木綿や古着などの衣類、塩、日用品などを売っていました。

北前船は、各地の産物だけではなく、人・もの・情報も日本海の各湊に運びました。鰯ヶ沢町には、江戸時代に北前船で運ばれた上方の文化や祭りなどがいまも残っています。

### 北前船が立ち寄った湊

【よみがえれ北前船  
北国の海運と船展より】



【提供/NPO法人 あおもりみなとクラブ】

## (2) 船人が残したもの

白八幡宮は、鰯ヶ沢町本町の湊を一望できる場所にあります。日本海の海運を利用した船主や船頭が商売がうまくいくことや、安全に海を行き来できることを願った神社です。神社には、いまでも船人たちが奉納した石や絵馬が残されています。

白八幡宮の本殿を囲む石づくりの「玉垣」は、船人たちが奉納したもの一つです。1816（文化13）年に建てられました。玉垣には、船で運ばれてきた御影石が使われています。御影石は船を安定させるために積まれた重石（バラスト）で、福井県の笈谷石とともに運ばれたとされています。石の一本いっぽんには奉納した人の名前がほられていて、鰯ヶ沢の船問屋のほか、大坂や北陸地方の船問屋とみられる名前も残されています。

船絵馬も、船人たちが奉納したものです。船絵馬は船の絵をかいた絵馬です。白八幡宮の船絵馬のうち12点は、大坂や北陸地方の船主たちによって奉納されたものです。これらの絵馬は、鰯ヶ沢町の文化財に指定されています。

白八幡宮に残る玉垣や船絵馬などは、海運で栄えた鰯ヶ沢湊をいまに伝える、大切なものなのです。



白八幡宮



奉納した人たちの名前が刻まれた玉垣



### 白八幡宮に行ってみましょう

北前船は、大坂から北海道まで、日本海を行き来して各地の産物や日用品などを売り買いした船なんだね。鰯ヶ沢にも北前船が立ち寄って、日本海側の各地の商品や文化を町に運んで来たんだ。

白八幡宮には、北前船の船主たちが海の安全と商売がうまくいくことを願って奉納したものがいまも残っているんだね。本殿を囲む玉垣は、北前船で運ばれた石が使われているんだ。白八幡宮に行って、玉垣を見てみようね！



# 8. 県・郡・市町村の誕生：明治時代



あおもりけん にしつ がるぐん  
青森県や西津軽郡は  
めいじ じたい  
明治時代にできたん  
だって。

あじ が さわまち  
いまの鱒ヶ沢町のも  
となる1町4村は、  
このころにできたん  
だね。



## (1) 青森県と西津軽郡の誕生

明治時代になると、青森県と西津軽郡が誕生しました。鱒ヶ沢町は西津軽郡鱒ヶ沢町となり、「鱒ヶ沢警察署」の向かい側の場所に西津軽郡役所が置かれました。

明治時代は、社会のしくみが大きく変わった時代です。1871（明治4）年には、これまでの藩に代わって県や府を置く「廃藩置県」という制度ができました。弘前藩は弘前県になりましたが、2カ月後に県庁を現在の青森市に移し、青森県となりました。

1878（明治11）年には、県の下に郡・町村が置かれ、青森県には、東・西・南・北・中の5つの津軽郡と、上北郡、下北郡、三戸郡のあわせて8つの郡ができました。鱒ヶ沢町は西津軽郡に入り、西津軽郡鱒ヶ沢町になりました。1891（明治24）年には郡制が実施され、それぞれの郡に郡役所が置かれました。郡役所には県庁から任命された郡長がいて、郡内の町村の条例や予算などの決め事の管理などを行っていました。

西津軽郡の郡役所は鱒ヶ沢町にあり、西津軽郡内を管理するという役割をもっていました。

### 1891年に郡役所が置かれた市町村

北津軽郡役所	ごしょがわらむら 五所川原村
西津軽郡役所	鱒ヶ沢町
中津軽郡役所	弘前市
南津軽郡役所	くろいしまち 黒石町
東津軽郡役所	あおもりまち 青森町
下北郡役所	たなぶむら 田名部村
上北郡役所	しちのへむら 七戸村
三戸郡役所	はちのへまち 八戸町

## 青森県の誕生

廃藩置県の制度で、弘前に県庁が置かれたのに、たった2カ月で青森町（現在の青森市）に県庁が移されたのはどうしてかな？

このころは、いまの北海道の南側や岩手県の二戸郡・九戸郡の一部までが青森県だったんだ。この広い県を治めるには、「県庁が弘前では南にかたよりすぎる」という意見が出たんだ。そこで、県の中央に位置している青森町に県庁を移したんだよ。

【青森県より】

## (2) 1町4村の誕生

明治時代に市制・町村制という制度ができ、青森県には1市5町165村が誕生しました。鱒ヶ沢町も11の町が一つにまとまり、新しい鱒ヶ沢町ができました。

市制・町村制が実施されたのは、1889（明治22）年です。この制度ができたことでたくさんある小さな町や村がまとまり、新しい市や町ができました。青森県にできた1つの市は弘前市、5つの町は青森・鱒ヶ沢・黒石・八戸・三戸です。鱒ヶ沢町も、七ツ石町や富根町、淀町などの11の町がまとまって、新しい鱒ヶ沢町ができました。また、舞戸村、赤石村、中村、鳴沢村もこの時に誕生しました。

鱒ヶ沢町には、1884（明治17）年に、西津軽郡の全域を管理する治安裁判所や収税部（現在の税務署）の出張所ができました。また、警察署や水産試験場、土木事務所など青森県の重要な機関も次々置かれました。

郡役所があった鱒ヶ沢町には、こうした国や県の機関が置かれ、西津軽郡の政治と経済の中心地となったのです。



西津軽郡役所（右側の背の高い建物）  
【提供/青森県史デジタルアーカイブシステムより】

## 郡役所の移転問題

西津軽郡役所を鱒ヶ沢町から、いまの「つがる市木造」に移そうという動きがあったんだ。これは海側に鱒ヶ沢町、津軽平野に木造と、西津軽郡に2つの中心地があったから起こったことだよ。郡の議会は、郡役所を木造に移すことを決めたけど、鱒ヶ沢町の人々は、郡役所が移ることで裁判所や警察署も移ってしまうのではないかと考えて、はげしい反対運動を起こしたんだ。結局、郡役所は移転されず、最後まで鱒ヶ沢町に置かれていたんだよ。



## 西津軽郡の中心地となったことを覚えておきましょう

明治時代の廃藩置県という制度で、青森県ができたんだ。それから少しして西津軽郡が、さらに11年後には11の町がまとまって鱒ヶ沢町が誕生したんだよ。舞戸村、赤石村、中村、鳴沢村ができたのも、この時だよ。

鱒ヶ沢町には、西津軽郡役所が置かれていたんだ。いま「鱒ヶ沢警察署」がある向かい側にあったんだね。郡役所のほかにも、裁判所や収税部の出張所といった国の仕事をする機関、警察署や水産試験場、土木事務所といった県の仕事をする機関も置かれたんだ。鱒ヶ沢町は明治時代、西津軽郡の中心地になったんだね。覚えておこう！



# 9. 軍事施設が置かれた鱒ヶ沢：明治時代



なるさわ  
鳴沢地区には北東北  
で一番大きい陸軍の  
演習場があったんだ。

やまの  
山田野演習場には、  
兵士の生活に必要な  
建物や設備が整えら  
れていたんだね。



## (1) 山田野演習場の役割

明治時代、鳴沢地区には陸軍第八師団の兵士が訓練を行う山田野演習場がありました。山田野演習場は、北東北で最大の演習場でした。

明治時代から第二次世界大戦後まで、日本には、陸軍と海軍という2つの軍隊がありました。1898（明治31）年、弘前に陸軍第八師団ができました。第八師団には、さまざまな部隊をはじめ、部隊をまとめる師団司令部が置かれました。部隊には、徒歩で戦う歩兵、馬に乗って戦う騎兵がありました。また、大砲を使って戦う砲兵や、道路や建物などを整備する工兵などもありました。師団には、ふだんから約1万2,000人、戦争の時になると2万人以上もの兵士たちがいたので、弘前市は「軍都弘前」と呼ばれました。兵士たちが軍事訓練をするために岩木山のふもとの鳴沢地区につくられたのが、山田野演習場です。

演習とは、実戦と同じように行う訓練のことです。山田野には高低差がある広い原野があり、演習に適していました。山田野では、第八師団ができる前の1891（明治24）年ころにはすでに訓練が行われていたとされます。弘前に第八師団が置かれたことで、山田野が演習に使われる機会が増えました。山田野演習場は、現在の鱒ヶ沢町、つがる市、鶴田町、弘前市にまたがるほど広いもので、50km<sup>2</sup>もありました。山田野演習場は、北東北で最も広い陸軍の演習場だったのです。



山田野演習場廠舎（兵舎）



山田野兵舎正門

## (2) 山田野の軍事施設

山田野演習場には、兵舎、炊事場、売店など、兵士たちの生活に必要な設備が整えられていました。演習に使われたトーチカはいまも残っています。

山田野演習場には、訓練を行う演習場と、兵士たちが生活した場所がありました。兵士が生活した場所には、兵士たちが居住する兵舎12棟のほか、部隊を取りしきる将校たちが居住した将校宿舎が建てられました。また、炊事場、風呂場、軍馬の厩舎、材料倉庫などの建物もありました。1棟の兵舎に200人ほどが宿泊したといわれています。12棟の兵舎を利用して、最大2,000人以上の兵士が一度に宿泊できました。兵舎には衣食住に必要な設備が整っていて、食料をもちこめば長期間にわたって滞在することができました。また、酒保という売店もありました。

演習場には、砲弾が落ちた地点を測るコンクリート製の陣地「トーチカ」がつけられました。かつては多数ありましたが、いまは、長平の二ツ森山の山頂にある円形トーチカと、弘前市猿沢の畑にある土盛状トーチカの2つが残されています。兵士たちがきびしい訓練を積んだ山田野演習場は、1945（昭和20）年に戦争が終わったことで、役目を終えました。山田野は、戦争の歴史が刻まれた場所なのです。



兵舎の中の様子



山田野での射撃訓練



## 「兄のトランク」を読んでみましょう

山田野演習場は、弘前にあった陸軍第八師団の兵士たちが訓練するためにつくられたんだね。北東北で最大の広さをもつ陸軍演習場だったんだよ。兵士が生活するための建物も建てられていたんだ。一度に2,000人以上が泊まれたなんて、びっくりだね。山田野演習場は戦争が終わったことで役目を終えたけど、演習で使われたトーチカがいまでも残っているんだ。山田野には、戦争の歴史が刻まれているんだね。

兵士たちは訓練中に家族や友人と会うことができたんだ。宮沢賢治は訓練中の弟・清六に会うため、1925（大正14）年に山田野演習場にやって来たんだ。清六がその時の様子を書いた作品があるんだ。『兄のトランク』という本にある「曠野の饗宴」というタイトルの作品だよ。読んでみよう！



# 10. 明治から昭和への移り変わり：明治時代～昭和



めいじ じだい ゆうびんきょく  
明治時代に郵便局や  
でんわ  
電話などができて、  
く  
暮らしが便利になっ  
べんり  
たんだね。

たいしょうじだい  
交通は大正時代から  
しょうわ  
昭和のはじめにかけ  
はったつ  
て発達したんだよ。



## (1) 暮らしの変化

近代化が進んだ明治時代、鱒ヶ沢町の人々の生活や文化も大きく変わりました。

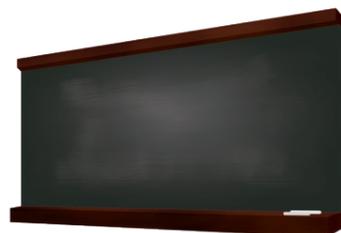
いまの郵便局にあたる「郵便取扱所」が鱒ヶ沢町にできたのは1872（明治5）年です。そのころ青森県内に16カ所しかなかった郵便取扱所が西北津軽地方でいち早く、鱒ヶ沢町にできました。1893（明治26）年に電報が、1910（明治43）年には電話が町に開通します。また、1916（大正5）年には町に電灯会社ができ、電灯がつけました。水道はおそく、町営の上水道は1962（昭和37）年に通りました。

鱒ヶ沢町に公立小学校が置かれたのは1873（明治6）年です。それまで、子どもは、武士やお坊さんなどが開いた「寺子屋」で学んでいました。しかし、すべての子どもが寺子屋に通えたわけではありませんでした。公立小学校ができたことで、より多くの子どもが、文字の読み方、書き方、計算の方法などを学べるようになったのです。

こうして明治時代から昭和にかけて、生活に必要な設備や施設が次々に整えられ、人々の暮らしも変化していったのです。



1872（明治5）年  
郵便取扱所ができた

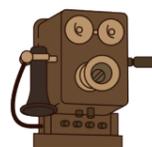


1873（明治6）年  
鱒ヶ沢小学校ができた



1878（明治11）年  
公立鱒ヶ沢病院ができた

1910（明治43）年  
鱒ヶ沢・舞戸・赤石村大字  
おおわだ  
大和田地区に電話が開設



1916（大正5）年  
鱒ヶ沢・中村地区に電気がついた

1962（昭和37）年  
鱒ヶ沢・舞戸・赤石地区に  
町営の上水道が通った



【鱒ヶ沢町史、鱒ヶ沢町史年表より】

## (2) 交通の発達

江戸時代は陸上の主要な道に関所があり、人やものが自由に行き来することはできませんでした。しかし、明治時代になると、道路や鉄道などの陸上交通が整えられていきます。

西北津軽地方の鉄道の始まりは1918（大正7）年です。いまの田舎館村の川部駅と五所川原駅の間が開通しました。その後、五所川原から秋田県能代までを鉄道で結ぶ計画が立てられました。鱒ヶ沢町内には、鳴沢駅、鱒ヶ沢駅、陸奥赤石駅の3駅があります。そのうち、鳴沢駅と鱒ヶ沢駅が開業したのは1925（大正14）年。陸奥赤石駅は、4年後の1929（昭和4）年に開業しました。駅の開業により、鱒ヶ沢町から五所川原や弘前、青森まで、かんたんに行き来できるようになりました。さらに、鉄道が通ったことで、人だけでなく、町の産物も盛んに運ばれるようになったのです。

鉄道が通っていない地域では、乗合自動車の人々の生活の足になりました。鱒ヶ沢町で乗合自動車が運行を始めたのは1928（昭和3）年。まだ五能線が開通していなかった深浦までの移動手段として活躍しました。その翌年には、バスやタクシーが鱒ヶ沢町内を走るようになりました。

鉄道や車が走るようになったことで、人々の生活は、さらに便利になったのです。



開業当時の鱒ヶ沢駅



五能線を走った蒸気機関車



## 暮らしの変化を覚えておきましょう

明治時代から昭和にかけて、鱒ヶ沢町の人々の暮らしは大きく変わったんだ。いまでは生活に欠かせない郵便局や電話、小学校ができたのは明治時代なんだよ。道路や鉄道が整備されたのも、この時代だよ。昔はたくさんの荷物を一度に運ぶために船を使っていたけど、鉄道を利用して、もっと便利に運べるようになったんだ。そのことで、明治時代のはじめころまで活躍していた北前船はおとろえていったんだ。

電気や水道、鉄道、バスなど、いま身近にあるものの多くは、明治時代から昭和のはじめころに整備されたんだ。覚えておこうね。

# 11. 海岸の整備と鱈ヶ沢町の誕生：明治時代～昭和



高い波から町や船を守るために海岸を整備する大工事が行われたんだね。

いまの鱈ヶ沢町は、1つの町と4つの村が一つになって誕生したんだよ。



## (1) 海岸の整備

海に面した鱈ヶ沢町は、たびたび高波による災害におそわれていました。そこで、明治時代から昭和にかけて、町を高波から守るための護岸工事や港の整備が何度も行われました。

護岸工事が始まったのは、1898（明治31）年です。工事の途中にも高波が何度も町をおそい、14年もの年月をかけて1912（大正元）年ようやく完成しました。

一方、鱈ヶ沢港の整備工事が始まったのは、1932（昭和7）年です。船は明治時代からエンジンを使うようになり、大型化が進みました。しかし、当時の鱈ヶ沢港には、大きな船をとめる場所や、船を波から守る防波堤がなかったことから港の整備工事が行われました。工事では、海を埋め立てて船をとめられる場所をつくり、弁天崎の先に防波堤が築かれました。埋め立てには、天童山を切りくずした土も使われました。また、水あげされた魚などを陸にあげる設備や、陸あげしたものを運ぶための道路などもつくられました。

鱈ヶ沢町の海岸の整備工事は、明治から昭和にかけて何度も行われました。こうした工事によって、高波の災害を防ぎ、漁港として利用できる港ができたのです。



港が整備される前の鱈ヶ沢港



土砂の運搬の様子

## (2) 鱈ヶ沢町の誕生

いまの鱈ヶ沢町は、1955（昭和30）年に1つの町と4つの村が合併して誕生しました。いくつかの市町村が一つになることを合併といいます。戦後、市町村の合併をすすめる法律ができたことで、当時の鱈ヶ沢町、舞戸村、赤石村、中村、鳴沢村が合併に向けて話しあいを行うことになりました。

1つの町と4つの村の中で、人口が一番多かったのは鱈ヶ沢町で、次に多いのが赤石村でした。町村の面積では、赤石村が一番広く、次に広いのが中村。そして三番目が鳴沢村でした。人口が一番多い鱈ヶ沢町に、小学校は西海小学校しかありませんでした。しかし、面積が広い赤石村や中村、鳴沢村には、そのころ、それぞれ4つの小学校がありました。新しい鱈ヶ沢町になると、それまであった町や村の境がなくなります。そこで、財政のこと、学校や保育所のこと、病院のことなどについて、何度も話しあいがもたれました。そして1955（昭和30）年に、新しい鱈ヶ沢町が誕生しました。

合併前の鱈ヶ沢町は、港を中心とした小さな町でした。しかし、1つの町と4つの村が合併したことで、山・川・海のある、自然や産業が豊かな町になったのです。

### 1955年の合併当時の人口や面積など

	鱈ヶ沢町	舞戸村	赤石村	中村	鳴沢村	新・鱈ヶ沢町
人口	6,439人	3,814人	5,781人	3,945人	3,845人	23,824人
戸数	1,230戸	666戸	921戸	580戸	576戸	3,973戸
面積	0.5km <sup>2</sup>	13.6km <sup>2</sup>	185km <sup>2</sup>	110.9km <sup>2</sup>	30.3km <sup>2</sup>	340.3km <sup>2</sup>
小学校	西海小学校	舞戸小学校	赤石小学校 南金沢小学校 深谷分教場 一ツ森小学校	中村小学校 芦刈小学校 浜横沢小学校 長平小学校	東鳴沢小学校 山田野分校 建石分校 第一鳴沢小学校	14小学校
中学校	鱈ヶ沢中学校	舞戸中学校	赤石中学校 南金沢中学校	中村中学校 芦刈中学校 長平中学校	第一鳴沢中学校 東鳴沢中学校	9中学校

【鱈ヶ沢町史より】



## 鱈ヶ沢町が誕生した年を覚えておきましょう

鱈ヶ沢町では、明治時代から海岸を整備する工事が行われていたんだね。町を高波から守る護岸工事はその後、何度も行われたんだ。こうした工事のおかげで人々が安心して暮らせるようになったんだよ。また、大きな船が安全にとめられ、とれた魚などを水あげできるようになったのも、漁港の工事があったからなんだ。いまの鱈ヶ沢漁港や海の駅わんど、はまなす公園がある場所は、護岸工事で埋め立てられた場所なんだよ。

いまの鱈ヶ沢町は、1つの町と4つの村が合併して誕生したんだ。1955（昭和30）年のことだよ。覚えておこうね。

